

# 第1・2学年 生活科 学習指導案

屋久島町立永田小学校

教諭 吉富 祐子

## 1 単元名 「永田の名人を見つけよう」

### 2 単元の目標

- 自分たちが住んでいる地域や人々の様子を理解し、学習したことを発信できるように、まとめることができる。

(知識及び技能)

- 自分たちが生活している地域には、どんな人々がいて、どんな場所なのだろうかという課題を設定し、自分たちにできることを考えたり、考えたことを伝えたりすることができる。

(思考力・判断力・表現力)

- 自分たちの地域には、素晴らしい自然があり、人々がいることに気付き、より地域や人々のことを知りたいという意識をもち、意欲的に活動に参加したり、学んだことをまとめたりすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元「永田の名人を見つけよう」は、世界自然遺産の島、屋久島の魅力について、体験活動を通して気付かせ、地域の人々が守っていることを根拠に、現在及び将来にわたって行事や文化を続けていけるよう、郷土愛を育むことを目指す単元である。

また、保護者や地域の方に発表したり、ICTを活用して他校と交流したりすることで、より多くの方に自分たちの住む地域の魅力を伝える機会を確保しながら、相手意識をもって活動することができるようになるよさがある。情報活用収集能力や活用能力の育成にもつなげる学習に位置づけられる。

#### (2) 児童観

本学級は1・2年複式の学級で、1年生1名、2年生3名の計4名の児童が在籍している。4名のうち2名は生まれた時から地域に住み本校に入学してきた児童、残りの2名は、1年間は鹿児島県内の他校で学習した後、本校に転入してきた児童、山海留学生として他県から転入してきた児童で、地域での生活時間も経験も様々である。これまでに生活科の「学校探検」で、校内の先生や上級生など学校内の人との関わりがあることに気付いている。また、「塩づくり体験」や「いかだレース」、「うみがめのふ化観察・放流」を全校で行うことで、自分たちが暮らす地域には川や海があることを知っている。また、行事には地域の方が応援に来てくださったり、教えに来てくださったりする地域の方がいることにも気付くことができることから、いろいろな人に興味をもつこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、学校にはどんな友達や先生がいるか、どんな場所があるかを見つける学校探検を行う。学校で生活するためには、いろいろな人との関わりがあることに気付かせ、楽しく学校生活を送るにはどうすればよいかという課題をつかませたい。

次に、全校で行う「塩づくり体験」や「いかだレース」を通して、地域にはきれいな川や海があることに気付かせ、さらには、そのきれいな川や海に関わる人々がいることに気付かせる。

そして、他教科との関連も明確にし、体育科で行う運動会で踊る「屋久島エレジー」の踊りの先生から、他の踊りを教えてもらう活動を行い、地域には踊りという文化があることに気付かせる。

さらには、これまでの活動を通して、分かったことをまとめ、実際に保護者や地域の人に伝えることで、地域のことを考え、地域のために活動できたという自信をもたせ、今後の活動につなげていくようにする。

### (4) ESD との関連

#### ・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性… 地域には素晴らしい自然があり、人々がいるということ。

公平性… 行事や文化が昔から続いていて、これからも続けていこうとすること。

責任性… これまでいろいろな人が引き継いできた文化を自分たちで終わらせるのではなく、つなげていこうとすること。

#### ・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力

地域にはいろいろな人がいて、その方々の思いや考えを聞き、いろいろな情報を取り入れる。

つながりを尊重する態度

塩づくりやウミガメの卵、屋久島の踊りを教えてくれるふるさと先生との関りを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、尊重しようとする。

進んで参加する態度

行事や体験活動を通して、自分にできることはないかを考え、実際に活動したりする。

#### ・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

地域の方々がかこれまで築いてきたことを、自分たちがどのようにつなげていくかということ。

人権・文化を尊重する。

地域にある文化について知り、その文化をどのようにして守っていくかということ。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

当たり前と思っている現在の生活が、将来的に続くとは限らず、今の状況が幸せであること。

・達成が期待される SDG s

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 2 つくる責任 つかう責任
- 1 4 海の豊かさを守ろう
- 1 5 陸の豊かさも守ろう

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 自分たちが住む地域には、自分たちを支えてくれる人々がいることを理解している。</p> <p>② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関連づけながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>① 学校や地域で行われる行事について、関わる人々がどのようなことをしているかを調べたり、行われている理由を考えたりすることができる。</p> <p>② 体験活動を通して学んだことから、自分たちにできることを考えることができる。</p> <p>③ 学んだことや考えたことをカードにまとめることができる。</p>	<p>① 地域の名人を見つけるという目的意識をもち、意欲的に活動しようとしている。</p> <p>② 学んだことから、自分にできることを模索しようとしている。</p> <p>③ 地域の人と私たちの生活のつながりを保護者や地域の人に発信しようとしている。</p>

5 単元の指導計画(全25時間)

過程	主な学習活動	教師の関わり	○ 評価 ・ 備考
つかむ 見通す	<p>1 学校探検をし、友達や先生、上級生との関わりから、自分たちの生活を支えてくれている人がいることに気づき、課題を発見する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちが住む地域にはどんな人がいるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真や動画を提示する。</li> <li>・ 関連マップや相関図を用いながら課題をつなげさせる。</li> </ul>	<p>(ウ) ① (主体的) (イ) ① (思・判・表)</p>
調べる	<p>2 「塩づくり体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのようにして作るのか。</li> <li>・ どうして塩づくりをしているのか。</li> </ul> <p>3 「いかだレース」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームのために何ができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GT を招き、塩づくりを通して、地域の人々の思いに触れることができるようにする。</li> <li>・ 友達と協力して活動できるようにし、身近な自然の素晴らしさ</li> </ul>	<p>(ウ) ② (主体的) (イ) ② (思・判・表)</p>

<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川がきれいなのはどうしてだろうか。</li> <li>4 「ウミガメの話を知ろう」</li> <li>・</li> <li>5 地域の踊りを教わる。</li> <li>・どんな踊りがあるのだろうか。</li> <li>6 学習したことをまとめる。</li> <li>7 活動の振り返りをする。</li> </ul>	<p>に気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの操作方法や、ルールについて指導する。</li> <li>・インターネット以外の情報収集の在り方を紹介する。</li> <li>・長期休業中も継続して調査できるように、方法の修正をさせ、情報を提供する。</li> <li>・発表相手に伝わりやすい表現や構成を工夫する。</li> </ul>	<p>(ア) ② (知・技)</p> <p>(イ) ② (思・判・表)</p> <p>(ウ) ①</p> <p>(イ) ③ (思・判・表)</p> <p>(ウ) ③ (主体的)</p>
<p>発信する</p>	<p>5 取組を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の方法や手順を主体的に思考させる。</li> </ul>	<p>(ア) ② (知・技)</p> <p>(イ) ② (思・判・表)</p>
<p>生かす</p>	<p>6 学習を通して気付いたことや自分の生き方についてキャリアパスポートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科・領域との関連を図り、継続的な指導に努める。</li> <li>・他学年に周知する。</li> </ul>	<p>(ア) ① (知・技)</p> <p>(イ) ① (思・判・表)</p>

## 【実際】

### 1 学期

- ・ 生活科「学校探険」「地域探険」の内容から、学校だけでなく、地域には、自分たちと関わりのある人がいるのかを考え、その人たちに出会う学習をするという予告をし、興味をもたせる。
- ・ 「塩づくり体験」・「ウミガメの話聞こう」  
…地域には、地域のことにくわしい人（ふるさと先生）がいることに気付く。

### 2 学期

- ・ 運動会で踊る「屋久島エレジー」を教えてくれる先生との出会い。

### 3 学期（予定）

- ・ 他に踊りはないか教えてもらう。「とびうおまねき」（踊り）と出会う。
- ・ 地域のいろいろな先生に出会えた1年だったことから、この地域の方々も自分たちの生活を支えてくれていることに気付く。
- ・ 出会えた人、出合ったことを自分の成長とともに、保護者に発表する。

## 【成果と課題】

- 成果 ○ 学校全体で取り組んでいること（塩づくり・ウミガメの話聞く・たまごのふ化観察・放流）を1・2年生の生活科の学習と結び付け、さらに、今回は、地域の踊りと結びつけた。その結果、年間を通した大きな単元として捉えることができ、つながりのある学習に組み立てることができた。また今後3・4年生の学習（川や海の水のつながり）につながる予定である。
- 生活科の学習の最後の単元で、児童が自分の成長を実感し、その成長にはいろいろな人のおかげであることに気付かせる内容となっているが、地域の人々も児童の成長に関わっていることに気付かせることができると考える。
- 学習を組み立てる中で、教師が地域に目を向け、その良さに気付くことができた。また、地域の人ともつながることができた。
- 課題 ● 完全複式の学校であるため、この計画は隔年で実施することになる。人材リストを継続して作成していき、教師が入れ替わった後も、持続できるよう今後も計画していく必要がある。

**現在の学年終了時に目指す姿**

自分たちが住む地域には素晴らしい自然やそこに関わる人々がいることに気付き、自分たちも地域の一員として体験活動に積極的に取り組み、自分たちにできることを考えることができる。

自分たちが住む地域には、どんな人がいるかな。

どんなことを教えてもらっているかな。

**道徳科「はたけの先生」(光文書院)**

地域には、教えてくださる人がたくさんいることに気付かせ、その方々がどのような気持ちで自分たちに教えてくれているかを考える学習である。自分たちの地域にいる人々を想起し、いろいろな人に支えられていることに気付かせる。

**生活科「永田の名人を見つけよう」**

○主に養いたいESDの資質・能力  
つながりやを尊重する態度  
塩づくりやウミガメの卵、屋久島の踊りを教えてくれるふるさと先生との関わりを通して、様々な人とのつながりが豊かな学びになっっているということを自覚し、尊重しようとする。

○主に育てたいESDの価値観  
幸福感に敏感になる、幸福感を重視する  
当たり前前と思っっている現在の生活が、将来的に続くとは限らず、今の状況が幸せであること。

**学校行事 運動会 郷土の踊りを踊ろう」**

運動会で地域の方から教わり、「屋久島エレジー」を地域の方と一緒に踊る。屋久島にも踊りがあり、私たちの住む地域の踊りはないかとも目を向けさせる。

私たちの地域には、ウミガメが産卵に来る浜がある。

他にも踊りがあるのかな。

私たちの地域でも同じ風景を見ることが出来るよ。

私たちの地域にはそんな行事があるのかな。

**2年 国語科「夏・秋・冬がいっぱい」(光村図書)**

季節にごとこの風習や行事、気候や植物などが紹介されており、自分たちの生活を振り返り、経験を思い出し、発表する学習である。自分たちが住む地域にも季節があり、その季節に見られる植物や行事、文化があることに気づかせたい。

**生活科「**

ウミガメの産卵地での清掃活動やウミガメの卵の観察、子ガメの放流を通して、地域の人々が、ウミガメが産卵できる浜を守ろうとしていることに気付かせる。

